

令和 5 年度事業報告書

学校法人 愛泉学園

令和5年度事業報告書

学校法人 愛泉学園
堺女子短期大学

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学科等

堺女子短期大学（昭和40年創設）

美容生活文化学科

美容文化コース

ビューティーマイクコース

舞台芸術コース

幼児教育コース

キャリア教養コース

別科 美容師養成課程（通信）〔美容師養成施設〕（平成26年創設）

香ヶ丘リベラルテ高等学校（大正11年創立）

全日制課程表現教育科

リベラルコース

アクティブアートコース

全日制課程普通科

保育進学コース

美容芸術コース

フィジカルコース

ファッションビジネスコース

アンダンテコース

ライフデザインコース

堺リベラル中学校（平成21年4月開設）

サンシャインコース

サンライズコース

(2) 当該学校・学科等の入学定員、学生数の状況

令和6年度（募集年度）及び令和5年度（入学年度）

<令和6年5月1日現在>

学 科	入学 (募集) 定員	志願者 数	合格者 数	入学者 数	入 定 充足率	収容 定員	現員	収 容 充足率
美容生活文化 学 科	150	133	133	132	88.0	300	300	100.0

(3) 教職員の概要等

教職員（学長・校長を含む）（令和6年5月1日現在）

堺女子短期大学

学 科	教授	准教授	講 師		助 教		助手	計		職員
	専任	専任	専任	兼任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任
美容生活文化 学 科	7	2	1	28	6	0	0	14	28	8

2. 事業の概要

I. 改組転換等について

(1) 改組転換

平成 27 年度に行なった改組転換以来、美容生活文化学科 1 学科 5 コース制をとっている。本学科は生活文化関連の専門的な知識と教養を身につけ、美と健康・福祉に貢献できる人材を育成することを目的としている。なお平成 26 年度に別科美容師養成課程（通信）〔美容師養成施設〕を設置している。これは、ブライダルや化粧品販売、エステ等で就業している本学卒業生のなかに、働きながら美容師国家資格を取得したいとの声があるのに応えてのもので、広くスキルアップをめざす地域の女性に貢献すべく設置したものである。

① 美容文化コース（美容師養成施設）

美容全般について学び、美容師を養成するコース。

（平成 12 年度設置）

② ビューティーメイクコース

メイク、ネイルを中心に美しさを表現することを学ぶコース。

（平成 14 年度設置）

③ 舞台芸術コース

ダンス、演技、歌唱、舞台照明・音響など舞台芸術全般を学ぶコース。

（平成 19 年度設置）

④ 幼児教育コース（指定保育士養成施設）

令和 4 年度に保育士コースから幼児教育コースへと改称した。子どもについて学び、保育士を養成するコース（平成 20 年度設置）。令和 3 年度より星槎大学通信課程と提携し、幼稚園教諭資格取得のための課程を履修できるようになった。

⑤ キャリア教養コース

令和 4 年度に教養コースからキャリア教養コースへと改称した。バランスの取れた知識と教養を身につけ、キャリアアップを目指す人材を養成するコース。

（平成 27 年度設置）

⑥ 別科 美容師養成課程（通信）〔美容師養成施設〕

3 年間の通信制で美容師を養成する課程。

（平成 26 年度設置）

(2) 研究生制度

平成 17 年度に設置し、本学卒業後、美に関するテーマについて専門的に学べる機会を提供した。今までに 45 名の研究生が入学した。

II. カリキュラムの改革等について

(1) カリキュラムの改革

1 学科 5 コース制の教育課程を編成し、特に実社会に役立つ技術の習得を目的としたカリキュラムの充実を図り、社会や学生のニーズに合った資格取得をはじめ、各種の検定試験と連動させた授業科目を積極的に設けている。卒業認定については、各コースのカリキュラムに従って既定の単位を修得した者には「卒業証明書・学位記」と各コースの「修了書」をそれぞれ授与している。

(2) 取得できる資格等とその支援

本学では、学生の学習目的を明確にすると共に、就職のためのスキルアップをめざし、様々な資格・検定試験等を導入している。

美容師国家試験の合格率は、開設時より通算で全国平均を上回る合格率を維持しており、授業内容、補講等の改善により確実に成果が上がっている。

(令和 5 年度実績)

区分	名 称	取得者 (名)
資格	美容師試験（国家試験）合格者	24 名
	保育士資格取得者	12 名
	社会福祉主事任用資格取得者	50 名
	幼稚園教諭資格	2 名
検定 試験	I B F 国際美容連盟国際メイクアップアーティストライセンス認定	44 名
	JMAセルフメイク検定	46 名
	JMAメイクアップ検定 2 級	38 名
	JMAメイクアップ検定 3 級	42 名
	日本ネイリスト協会ネイリスト技能検定 2 級	2 名
	日本ネイリスト協会ネイリスト技能検定 3 級	21 名
	JNA ジェル検定上級	8 名
	JNA ジェル検定中級	12 名
	JNA ジェル検定初級	58 名
	ネイルサロン衛生管理講習	25 名
	日本メイクアップ知識検定試験 ベーシック	31 名
	パーソナルカラー検定 2 級	4 名
	パーソナルカラー検定 3 級	22 名
	日本和装総合協会 3 級認定証	25 名
	日本情報処理検定協会文書デザイン検定 2 級	6 名
	日本情報処理検定協会文書デザイン検定 3 級	25 名
日本情報処理検定協会日本語ワープロ検定 3 級	5 名	

(3) 現代的ニーズ教育

① 情報・メディア教育の推進

全コースの学生対象に「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」（各1単位・選択）を教養科目として開設し、教養コース、舞台芸術コース、ビューティーメイクコースの学生対象に「文書処理演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各1単位・選択）を専門科目として開設し、各種検定試験の受験を支援している。

令和5年度は、情報処理技能検定試験・文書デザイン検定試験・日本語ワープロ検定試験の1級～4級等を受験している。

また、図書館のメディアラウンジと事務センターにあるキャリア支援センターにパソコンを設置し、学生が自由に利用できる環境を整えている。

② 国際理解教育の推進

例年、2年生対象に海外研修（グアム・ハワイ・韓国等）を実施している。コロナの影響で海外への研修はしばらく見合わせていたが、この年は11月13日～15日に韓国、ソウルを二泊三日で訪れた。かつての朝鮮王朝の宮殿である慶福宮などを現地のガイド付きで見学し、韓国の文化を学んだ。自由時間には、多くの学生がソウルの繁華街で最新の韓国ファッションやヘアスタイルに触れ、見聞を広めた。

③ 高大連携教育交流制度の開設

高等学校と本学双方の教育の活性化を図るために平成21年度から高大教育交流制度を設けている。併設校（香ヶ丘リベルテ高等学校）と交流協定を締結し、科目等履修生として受け入れを、8月・3月の2回実施している。

④ 平成13年度からインターンシップを単位認定（選択・1単位）して、推進している。

Ⅲ. 入学試験及び広報活動

令和5年度に実施した令和6年度入学試験の結果は以下のとおりである。

コース名	志願者数	合格者数	入学者数
美容文化コース	33	33	33
ビューティーメイクコース	45	45	45
舞台芸術コース	12	12	12
幼児教育コース	26	26	25
キャリア教養コース	17	17	17
合計	133	132	132

本学では、多様な入学試験を実施している。（AO入試、指定校推薦入試、一般推薦入試、自己推薦入試、一般入試）

広報活動としては、『大学案内』をはじめとする印刷物等の発行と配布、『堺女子短期大学通信』の発行と配布、ホームページの開設、入試説明会（本学会場）の開催、高校訪問、業者主催の説明会への参加、各高校における入試ガイダンスへの参加、オープンキャンパスの開催（7回）、学校見学相談会（2回）、資料請求者への『大学案内』等の送付など学園広報室を中心に全教職員が協力して行った。

オープンキャンパス(全7回) 参加人数(高校生) 243名

学校見学相談会(3回) : 参加人数(高校生) 22名

IV. 導入教育とオリエンテーション

- (1) 入学前教育として、入学予定者にコース別の課題を与え取り組ませた。入学式後のオリエンテーション時に回収した。ほとんどの学生は真剣に取り組んでいたことから、短大教育に対する期待の大きさが感じられた。

- (2) 入学式の翌日から2日間にわたり、新入生オリエンテーションを実施した。

オリエンテーションは、学生を各コースに分け、『学生生活の手引き』（学生便覧）、時間割等のプリントを配布して、各コースの担当教員がコースの教育目標、カリキュラム、授業内容、履修計画の立て方等を説明し、短大生活2年間における学習目標（資格の取得や検定試験の受験目標等を含む）を具体化できるよう努めている。

またこの時間に副学長から「本学の建学の精神とメディアリテラシー」についての講話を行った。

なお、各自の履修計画の作成にあたって、オリエンテーション後1週間にわたり、クラス担任が学生の個別相談にあっている。また、コースごとのオリエンテーションにおいて、教務課、学生課、事務センター、及び図書館の職員が学生生活における個別説明をそれぞれおこなっている。

- (3) 新入生宿泊セミナー

本学では、毎年4月末（授業開始後2週間後）に新入生を対象として、教職員と学生及び学生相互の理解と親睦を深め、大学生活2カ年の意義やあり方を考えると共に、大学生としての資質を高める目的で、学外宿泊セミナーを1泊2日で実施している。昨年度は新型コロナウイルス感染予防のため実施を遅らせたが、今年度は通例に戻し、4月27、28日に滋賀県のホテルエクシブ琵琶湖で行なった。

- (4) ガイダンス

ガイダンス(オリエンテーション)は、教育指導及び学習支援という観点から毎年、前・後期の初めに1・2年次生を対象として組織的に行っている。コース単位で、科目の履修方法、卒業要件単位の計算、就職支援、資格取得のシステムや方法、各種の手続きから図書館の利用法に至るまで、大学生としての基本的ルールを学生に把握さ

せる方法を採っている。

(5) スポーツフェスティバル

例年秋にレクリエーションと学生相互及び学生と教職員の健康増進とコミュニケーションの深まりを期待して、全学生・教員参加のもとに、学友会主催のスポーツフェスティバルを実施している。この2年間は新型コロナウイルス感染予防のため開催できなかったが、今年度は10月7日（金）に開催した。2年次生にとっては最初で最後のスポーツフェスティバルとなり、無事開催できてよかったと考えている。

(6) 納涼祭

例年、夏休みに入る直前の授業終了後、教職員による模擬店、ゲーム大会等で、教職員と学生の交流を促進するとともに、学生相互の親睦を一層深める機会として納涼祭を実施しているが、今年度は前年度に引き続き新型コロナウイルス感染予防のため取りやめた。

(7) 大学祭（かおり祭）

ここ数年は新型コロナウイルス感染予防のため取りやめたり、縮小する形の開催であったが、今年度は感染予防に十分配慮したうえで、11月12日（土）にほぼ例年通りのかたちで行なった。

(8) クリスマス会

例年、年内授業終了日に合わせて全学生参加によるクリスマス会を府内のホテルで実施している。この2年は新型コロナウイルス感染予防のため開催できなかったが、前年度から再開し、今年度は12月23日にリーガロイヤルホテル大阪で開催することができた。

V. 福利・厚生

(1) 学生の運動習慣と食習慣に関する自覚を促すため、平成11年度よりフィットネスクラブと提携し、学生が無料で施設を利用できるようにしている。平成13年度からは栄養バランスのとれた昼食が取れるように学生食堂のあり方を見直した。現在は、高級レストランや大手化粧品メーカーとのコラボランチなどを手がける(株)LEOCによるランチを提供している。美容・栄養面にも配慮したメニューを構成し、学生の健康維持のため、食育の観点からも有意義なものとなっている。実習棟4階に学生ホールが設けられ、学生の憩いの場所となっている。

(2) 奨学金制度の充実

平成17年度より本学独自の奨学金制度「なでしこ奨学金」を開設している。在学

期間中の利息分を奨学金として本学が負担するものである。

令和 6 年度「日本学生支援機構奨学金」利用者は 195 名(5 月 1 日現在)。「なでしこ奨学金」利用者は 0 名であった。

VI. 学生の人権・安全への対応

(1) セクシャル・ハラスメント

平成 13 年度に「セクシャル・ハラスメントの防止に関する規則」を制定し、これに基づいて作成した学生用の「セクシャル・ハラスメント相談の手引き」、教職員用の「セクシャル・ハラスメント防止ガイドライン」を活用している。

(2) セキュリティーシステム

学外者の侵入によって、本学の学生・教職員が危害や盗難等の被害に遭遇することを防止するために、校舎を出入りする際にはセキュリティーカードを使用しなければならないようにしている。

(3) 個人情報保護対策

平成 21 年度に定めた「堺女子短期大学個人情報保護規程」に基づいて、個人情報の適正な管理と保護に万全を期している。

VII. 卒業式

(1) 卒業証書・学位記授与式

令和 6 年 3 月 16 日、リーガロイヤルホテル大阪において、第 58 回卒業証書・学位記授与式を挙行了。コロナ禍の 3 年間、卒業記念パーティーは行わなかったが、前年度からまた再開している。

VIII. 卒業後の進路

(1) 進路支援

平成 25 年度より、学生の就職に関する相談支援から求人票の取りまとめ、企業との交渉などを担当するキャリア支援センターを設置し、キャリアコンサルタント国家資格をもつ専任の教職員を配置している。学生一人一人の個性と希望する職種に応じたきめ細かなキャリア支援を実践することにより、顕著な実績を残してきている。また従来から行ってきた免許・資格や技能検定に係る科目の開設、インターンシップの推進や就職ガイダンス、面接マナーセミナー、**Imagine the Best of Myself** 講座などによって、就職のためのスキルアップと意識改革を図っている。

進路の結果

令和 5 年度卒業生の就職・進学別の希望者数及び決定者数の状況は、表の通りである。主な就職先は、サービス職、販売職、事務職、その他であった。就職内定率は 98%

で、ここ 10 年ほどで過去最高であった。

	美容生活文化学科
卒業者数	147
就職希望者数	122
進学希望者数	4
就職者数	121
進学者数	4
(4 年制大学)	1
その他	22

IX. 教育改善と研究

(1) 教育改善への取り組み

① 学生による授業評価アンケートの実施

授業に対する学生の満足度を計り、以後の授業の改善に役立てるため、専任教員、兼任教員の担当授業科目を対象に、学生による授業評価のアンケート調査を平成 16 年度から毎年実施している。令和 4 年度は全科目につき 2 回実施した。(5 月、10 月)。

② F D ・ S D 活動の取り組み

平成 20 年度に設立された「近畿地区 F D 連絡協議会」に入会し、学内に「F D 推進委員会」が設立された。本委員会は「近畿地区 F D 連絡委員会」と連携を図りながら、F D 活動を実践している。

(2) 教員の研究活動

① 研究費等の支給

a. 個人研究費及び個人研修旅費

専任教員に対し、年額で個人研究費 10 万円、個人研修旅費 5 万円が用意されている。これらの執行については「個人研究費に関する内規」によっている。

b. 研究費補助

a の個人研究費・個人研修旅費とは別に、大学から特別の研究費補助が用意されている。

② 教員の研究結果を発表する機会の確保

例年、教員の研究活動を奨励し、専任教員は一週間に一日、研究のために費やす研修日を取得できるようにしている。また本学では毎年一年間に完成させた論文を学長に提出することとしている。本学の愛泉学会が発行している『堺女子短期大学紀要』

第 59 号には、3 編の論文が掲載されている。以下にその目次を記す。

「堺女子短期大学紀要」第 59 号（堺女子短期大学愛泉学会編、令和 6 年 3 月発行）

〈論文〉二〇二三年に発表された二つの沢田研二伝について

～書評・島崎今日子『ジュリーがいた』・中川右介『沢田研二』～…水谷千秋

「表現（読み聞かせ）の実践と今後の課題 …宇仁菅真

保育士養成校における音楽授業の現状と考察 …寺田真綾

X. 地域社会との交流

(1) 大学祭（かおり祭）の活用

例年、大学祭に際して地域住民の入場を認めているが、本年度も当日は大学を公開して、住民と学生の交流を図った。

(2) 「晶子の詩碑」の公開

これまで本学の正門内に設置されていた与謝野晶子碑を、昨年学園の東南隅のスペースに移動し、通りを歩く近隣住民や観光客等、より多くの方に見ていただけるようにした。

この石碑の表面には晶子の「山の動く日」の詩全文とそのノルウエー語訳が、裏面にはノルウエー王国女性閣僚 8 名(1986 年当時)と詩碑建立のいきさつが刻まれている。この碑が本学に建立されたのは、本学園が晶子の故郷堺の地にあり、かつ晶子の母校・堺高等女学校(現・府立泉陽高校)の同窓会「愛泉会」によって設立されたからである。

そのため本学では昭和 62 年 4 月 7 日の除幕式以後、晶子をテーマとした授業や公開講座を開講すると共に、地域の一般社会人にこの詩碑を公開してきた。(公社)堺観光コンベンション協会発行のパンフレット「与謝野晶子文学碑めぐり」等をもとに訪れる人々には、この詩碑建立の由来や解説を記した本学発行の『晶子碑案内ー[山の動く日]ー』を配布し、好評を戴いている。

(2) 地域活動・ボランティア活動

本学では、各コースの特色を生かした地域での社会貢献、ボランティア活動を推奨し、積極的に行っている。

- ・幼児教育コースでは、学生が近隣の保育園を訪問し、紙芝居やペープサート、手あそび・うた・ダンスなどを披露し、園児たちと交流する「出前保育」の取組みを継続的に行っている。
- ・ビューティーメイクコースの教員と学生が、堺マザーズハローワークと堺 Job ステーション女性のしごとプラザとの共催で、ビジネスメイクセミナーを開催している。
- ・ゼミナールⅡのアクティブラーニングの一環として、特別養護老人ホームを訪問し、メイク、ネイルケア、ハンドマッサージ等の美容技術を施したり、アクセサリー、ブロー

チなどの小物作成のお手伝い等を行っている。

- ・地域公開講座として、本学の水谷千秋副学長が「明治 150 年、戦後 77 年 歴史の中の日本文明—『教養の人類史 ヒトは何をを考えてきたか』から—」と題して講演を行った。

XI. 外部評価・情報公開

(1) 第三者評価（認定評価）の結果

平成 29 年度に、短期大学基準協会（認証評価機関）による第三者評価を受けた。その結果「堺女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 30 年 3 月 23 日付で適格と認める」と通知を受けた。

(2) 『堺女子短期大学通信』第 35 号の発行

今年度は 7 月 1 日に発行し、本学学生、保護者等、関係機関に配布した。内容は、学科コースの近況報告、人事関係、行事、同窓会便り、教員の研究業績等の紹介、入学試験やオープンキャンパスの案内等であった。

(3) ホームページの開設

令和 6 年度生の募集と本学の情報公開の手段として、大学案内や入学試験実施要項等の記事をホームページ (<http://www.sakaijoshi.ac.jp>) において公開した。さらに、短期大学情報公開コーナーを開設し、教育研究上の基礎的な情報、修学上の情報等及び財務情報を公開した。